

2021年
(令和3年)
6月12日[土]



沖縄大学

同窓会報

第32号

発行

沖縄大学同窓会広報委員会

〒902-8521 沖縄県那覇市宇国場555

☎・FAX 098 (832) 6560

E-mail
dosokai@okinawa-u.ac.jp



卒業式であいさつする棚原会長



女性部会・青年部会による植樹



卒業生の皆さん



入学式



卒業生の皆さん

卒業式・修了式あいさつ



沖縄大学同窓会
会長 棚原勝也

2020年度沖縄大学卒業式・修了式を迎えられた卒業生・修了生、ならびに御父母の皆さま、誠にありがとうございます。本学同窓会を代表し、一言ご挨拶を申し上げます。

新型コロナウイルスは全世界の感染者が1億人を超え、県内でも3度の緊急事態宣言が発令されるなど、国内外を襲う未曾有の大災害となつています。沖縄大学でもリモート講義を余儀なくされ、特に就職活動に励んだ卒業生の皆様や新入生にとっては困難な1年だったと思ひ胸を痛めました。

この新型コロナウイルスによる自粛や社会生活の変容によつて経済は大きなダメージを受け、全国で約8万人が解雇される状況にも至つています。そして、その8万人の影に、それに倍する「家族」への影響があることを忘れてはいけません。親の環境は即、子どもの生きる世界そのものでもあります。

種類の薪にも、希望や夢は灯すことができるのだと。皆さんの育つてきた環境は私には分かりませんが、大学の授業料を親が出してくれた人も多いことでしょう。皆さんがこの4年間で支払った金額は学費等を含め約350万円にもなります。皆さんの成長を期待した貴重なお金です。どうかその恩を忘れない人であつてほしい。

人生の出発点は自分では選べません。けれども人生は自分が変えることができるのだと私は私の経験から強く信じています。「船は港にいる時、最も安全であるが、それは船が造られた目的ではない」とは私の大好きな言葉です。皆さんは一艘の船です。

卒業し社会に飛び出すことは、皆さんの新たな船出です。船が造られた目的は何か、これからの航海を楽しみ、時には挫折し、傷を負いながらも自分と向き合い、沖縄大学で過ごした時間を人生の根っこにし、たくましく目的地へと向かう旅であることを、大学の先輩として心より念願し、エールを送り、同窓会長の挨拶といたします。

宅建表彰

同窓会は3月5日(金)、在学生に対する「資格取得支援事業」として、「宅地建物取引士資格試験」の合格者5人に対し、表彰状と報奨金を贈呈しました。

式には榎原会長や副会長はじめ、盛口満学長、島袋隆志学生部長が参加。榎原会長は「5人の合格者が沖縄大学というキャンパスで様々な人と出会い、触発を受けるなかで難関の試験に挑むことを決意し、合格されたのだろう」と前置きし、「これからもその出会いに感謝し、勝ち得た武器を使って、新たな挑戦に挑んで下さい」と激励。

盛口学長は「支えるものとしての大きな存在として、いざという時にこうして皆さんを励まし、支えてくれる同窓会の先輩たちがいる」と述べました。

合格者は、平川さくら(経法商学科1年次)、上池貴也(経法商学科3年次)、知名定孝(経法商学科3年次)、宮城幹(経法商学科3年次)、加藤颯(経法商学科4年次)さん。加藤さんは昨年度に行政書士試験にも合格している。

合格者はそれぞれ「難しい試験だった」と振り返り次の目標へ向けた決意を述べ、うち経法商学科1年次の平川さくらさんは、「宅地建物取引士が責任感のある仕事とわかった。これからの学生生活では難しい資格にチャレンジして自分の価値を高めていきたい」と話しました。



奨学生証書授与式

同窓会は3月22日(月)、2020年度奨学生証書授与式を開催し、この春大学院への進学を決めた2人に奨学金を授与した。これは同窓会が沖縄大学を支援するもので給付型のもの。

授与されたのは楠原美海さん(鹿児島大学大学院人文社会科学研究科)と、仲松夕里菜さん(琉球大学大学院教育学研究科)。

授与式には大学側から盛口学長はじめ、島袋学生部長、奨学生を推薦した黒木義成、島田尚徳の両先生が参加した。

盛口学長は、同窓会の支援に対するお礼を述べるとともに、2学生を「沖縄大学をひとつのプラットフォーム(足場)にして、さらなる活躍を期待する」と激励。

これに対し、仲松夕里菜さんが代表して、「中学の頃から母子家庭で経済的には厳しい家庭だったが『お金が原因であきらめたくない』と、高校、大学まで進ませてもらった。さらに大学院に進みたいと思つたとき、最初に母の顔が浮かんだ。そんなときに同窓会の奨学金制度があると知った。今回の給付で入学できる安心が得られたことに感謝しています。大学院に進学して、もっと成長して沖縄大学に恩返しできるように頑張ります」と感謝した。この奨学金はさまざま

な事情を抱える家庭が増える中、経済支援を求める学生に手を差し伸べるものです。



沖大V初の全国大会へ

沖縄大学硬式野球部は、第105回九州地区大学野球選手権南部ブロック大会沖縄地区予選リーグ戦で2期連続41度目の優勝を飾り、榎原勝也会長から、大城貴之監督に派遣費贈呈が行われた。5月24、26日に全国大会出場をかけた鹿児島県で行われる南部ブロック決勝リーグに沖縄県代表として出場した。島袋瑤平主将は「今回、県予選で優勝しましたが、一度負けてしまい、チームで掲げた『完全優勝』という目標達成が出来なかったのが唯一の心残りです。し

かし、この負けからチームの成長に繋がり優勝を果たせました。沖縄大学同窓会にはいつも多くの支援を頂き、チームを代表してお礼を申し上げます。2年前の九州大会では、あと一步というところで負けているのをスタンドで見っていました。今回、九州大会で完全優勝を果たし、この一年間ずつと掲げてきた『神宮初出場』という最終目標を達成しました。コロナ禍、県予選から応援してくれた方々に感謝します。



女性部会・青年部会が桜を植樹

沖縄大学同窓会女性部会・青年部会寄贈の桜の植樹式が3月17日、行われました。これは女性部会の発案で、「キャンパスに桜の木が増えることで春のイベントや式典等により花を添えることができれば」と贈られたものです。榎原同窓会会長は、「女性らしい視点で、とても嬉しい提案に感じました。今回寄贈する桜の木によって、学生たちのキャンパスライフがより豊かなものになることを願っています」と挨拶。続いて佐喜真實理事長が「寄贈のカンヒザクラの仲間入りはとても嬉しく、花がシーズンシーズンに咲く沖縄大学となるようにしていきたい」と述べました。



2021年度・2022年度同窓会役員・評議員・顧問・各支部長

役職名	氏名	卒業年	部・学科	
1	会長 棚原勝也	1990年	1部経済学科	
2	副会長 仲村昌和	1986年	2部法学科	
3	副会長 稲嶺論	1993年	1部経済学科	
4	副会長 末吉直	1993年	2部経済学科	
5	副会長 島袋格	1999年	1部経済学科	新任
6	評議員 飯田明美	2019年	国際コミュニケーション学科	新任
7	評議員 海野高志	2005年	2部福祉文化学科	
8	評議員 上田真弓	1993年	法経学部法学科	新任
9	評議員 大城明	1990年	1部経済学科	
10	評議員 小川勇作	2010年	1部国際コミュニケーション学科	
11	評議員 親川盛一	1967年	2部法学科	
12	評議員 川上悠	2016年	福祉文化学科	新任
13	評議員 喜納憲利	1973年	1部経済学科	
14	評議員 金城正秀	1987年	1部経済学科	
15	評議員 具志堅毅	1988年	1部法学科	
16	評議員 熊谷フサ子	2007年	大学院現代沖縄研究科	
17	評議員 志村幸司	1988年	1部法学科	
18	評議員 下地将生	2004年	1部福祉文化学科	
19	評議員 平良裕	1992年	1部法経学科	
20	評議員 高良謙隆	1972年	1部経済学科	
21	評議員 玉城祥梧	2015年	法経学科	
22	評議員 鳥越一枝	1991年	1部法学科	
23	評議員 中林道	1994年	1部法学科	
24	評議員 浜比嘉大祐	2012年	1部法経学科	
25	評議員 比嘉康太	2021年	国際コミュニケーション学科	新任
26	評議員 眞榮城淳二	1990年	法経学科経済学コース	新任
27	評議員 前田貴太瑠	2016年	福祉文化学科	新任
28	評議員 松原正太	2004年	2部福祉文化学科	新任
29	評議員 屋嘉部孝	1991年	1部経済学科	
30	評議員 山崎新	2005年	1部法経学科	新任
31	評議員 山城智二	1994年	2部経済学科	
32	評議員 吉元竜一	1990年	1部法経学科	新任
33	監事 大城達司	1991年	1部法学科	
34	監事 宮国利公	1974年	1部経済学科	
35	事務局長 奥間邑明	1976年	2部経済学科	
36	会計 檜原海里	2011年	1部国際コミュニケーション学科	
37	顧問 棚原勇吉	1960年	2部短大商経科	
38	顧問 松堂厚雄	1960年	2部短大英文科	
39	顧問 幸地正博	1964年	1部商学科	
40	顧問 大城定理	1964年	1部商学科	
41	顧問 崎濱盛喜	1987年	2部法学科	
42	顧問 許田英子	1984年	2部法学科	
43	顧問 島袋正治	1970年	1部経済学科	
44	顧問 金城正弘	1970年	1部経済学科	
45	顧問 屋比久里美	1996年	1部経済学科	
46	顧問 友利浩	1971年	1部経済学科	
47	顧問 金城正美	1972年	1部法学科	
48	顧問 謝花美佐子	1995年	2部法学科	
49	顧問 玉城舞瑛子	1983年	2部経済学科	新任
50	顧問 宮城恵美子	1992年	2部経済学科	新任

※評議員氏名は50音順

※顧問は就任順

支部長

1	関東支部 仲宗根政則	1990年	2部経済学科	
2	久米島支部 宇江城久人	1992年	1部法学科	
3	宮古支部 下地一美	1982年	1部法学科	
4	八重山支部 鳩間真英	1968年	1部経済学科	
5	台湾支部 陳保佑	1992年	1部経済学科	

2020年度
卒業式・修了式を挙

2021年3月11日(木)、2020年度沖縄大学卒業式・学位授与式、修了式を開催しました。

2020年度は、大学卒業生376名、大学院修了生3名、合計379名が新たな門出を迎えました。また、今年は新型コロナウイルス感染症防止の観点より、学科ごとに会場を分けて行い、卒業生・修了生、本学の関係者のみの参列とし、式典の様子は学内会場には



ライブ配信しました。各学科ごとの授与式では教員が作成した「卒業おめでとう映像」の上映や、学生制作の思い出のビデオの上映、学科独自の表彰などが行われ、恩師や仲間との最後の時間を過ごしました。

2021年度
入学式を挙

2021年4月2日、2021年度入学式を開催しました。

昨年度は新型コロナウイルスの感染拡大の影響で中止となった入学式、今年度は学科ごとに会場を分散してメイン会場の式典の様子をオンライン配信し、592人(編入学、大学院含む)の新入生を沖縄大学に迎えました。式典後は、各学科の教員紹介等も行われました。



5日から本格的な大学生活がスタートします。



沖縄大学経営企画室 兼島徹

新ロゴマークの紹介

本学では、伝統的な校章に加えてさまざまな場面で活用できる新たなロゴマークの検討を進め、2020年6月10日の創立記念日に

皆様にお披露目しました。新ロゴマークのイメージソースは、カジマヤー(沖縄の風車)です。風車の中心を沖縄大学とし、6枚の羽根(学生、教職員、卒業生、地域の皆様、地元企業、沖縄を取り巻くあらゆる人々)に「変革を起す風」「思いやりの風」「小さくとも優しい風」などの、多様な風があたることで、沖縄大学という拠点から「新たな大きな風」が生まれ、送り出されていくイメージです。デザインカラーは、沖縄の水の循環(森に雨が降って川となり、川から海に水が流れ、海水が蒸発して雲となり、雲が雨となって森に恵みの水をもたらす)をイメージした、「緑から青」のグラデーションとなっており、そのさまざまな色合いは多様性を表現しています。

2020年度
同窓会事業活動報告

1. 役員会開催(5回)
2. 評議員会開催(3回)
3. 監査・定期総会・懇親会
4. 広報委員会(6回)
5. 役員選考委員会
6. 沖縄大学支援同志会幹事会
7. 沖縄大学支援同志会家賃等授与
8. 奨学金授与式
在学生への支援
9. 社会福祉士・精神保健福祉士合格者へ祝金贈呈
- ② 宅地建物取引士資格試験合格表彰
- ③ 同窓生子息・子女(あるいは配偶者)への入学金一部補助
- ④ 沖大祭への運営補助
- ⑤ 新型コロナナ同窓会支援金授与
- 出張関係
- 同窓会支部総会(宮古・八重山支部)



2021年度一般会計予算書
2021年4月1日～2022年3月31日

収入の部 (単位:円)			
項目	2021年度予算A	2020年度予算B	増△減 A-B
1. 会費	7,660,000	7,500,000	160,000
2. 事業収入	1,000	1,000	0
3. 雑収入	100	1,000	△ 900
当期収入合計	(7,661,100)	(7,502,000)	(159,100)
前年度繰越金	3,126,005	2,890,841	235,164
収入合計	10,787,105	10,392,841	394,264

支出の部 (単位:円)

項目	2021年度予算A	2020年度予算B	増△減 A-B
1. 事務費	1,436,000	1,466,000	△ 30,000
2. 会議費	730,000	660,000	70,000
3. 事業費	6,815,000	6,835,000	△ 20,000
A 卒業生対象事業	(3,850,000)	(2,800,000)	(1,050,000)
B 在学生対象事業	(2,915,000)	(3,835,000)	(△ 920,000)
C その他の事業	(50,000)	(200,000)	(△ 150,000)
4. 大学への補助金	740,000	740,000	0
5. 記念事業積立	500,000	500,000	0
6. 雑費	100,000	100,000	0
7. 予備費	316,105	91,841	374,264
支出合計	10,787,105	10,392,841	394,264

※2020年度決算書支出の部 5. 児童福祉特別奨学金は3. 事業費に含まれる

2020年度一般会計決算書
2020年4月1日～2021年3月31日

収入の部 (単位:円)			
項目	予算額 A	決算額 B	増△減 B-A
1. 会費	7,500,000	7,600,000	100,000
2. 事業収入	1,000	0	△ 1,000
3. 雑収入	1,000	2,279	1,279
当期収入合計	(7,502,000)	(7,602,279)	(100,279)
前年度繰越金	2,890,841	2,890,841	0
収入合計	10,392,841	10,493,120	100,279

支出の部 (単位:円)

項目	予算額 A	決算額 B	増△減 B-A
1. 事務費	1,466,000	638,604	△ 827,396
2. 会議費	660,000	294,183	△ 365,817
3. 事業費	6,710,000	5,194,328	△ 1,515,672
A 卒業生対象事業	(2,800,000)	(1,819,018)	(980,982)
B 在学生対象事業	(3,710,000)	(3,360,000)	(350,000)
C その他の事業	(200,000)	(15,310)	(184,690)
4. 大学への補助金	740,000	740,000	0
5. 児童福祉特別奨学金	125,000	0	△ 125,000
6. 記念事業積立	500,000	500,000	0
7. 雑費	100,000	0	△ 100,000
8. 予備費	91,841	0	△ 91,841
当期支出合計	10,392,841	7,367,115	△ 3,025,726
次年度繰越金	0	3,126,005	

2020年度特別会計決算書
沖縄大学同窓会創立60周年記念事業積立金
2020年4月1日～2021年3月31日

収入の部 (単位:円)		
項目	決算額	備考
1. 前年度繰越金	500,003	2019年度開始
2. 特別積立金	500,000	一般会計より
3. 雑収入	5	利息
収入の合計	1,000,008	

支出の部 (単位:円)		
項目	決算額	備考
1. 次年度繰越金	1,000,008	
支出の合計	1,000,008	

1. スポーツ大会の開催
2. 同窓会奨学金の交付
在学生・卒業生の人材育成のため、奨学金を給付
3. 同窓会報発行年2回(6月・1月予定)
4. 各支部(宮古・八重山・関東・久米島・台湾)活動支援
5. 部会への活動支援
6. 同窓会創立60周年記念事業積立継続
7. 在学生への支援事業
在学生の学習と各種活動のため次の支援を行う
- ① 同窓生子息・子女(あるいは配偶者)への入学金一部補助
- ② 資格取得支援補助
- ③ 就職活動への補助
- ④ サークル県外派遣費補助
- ⑤ 大学祭運営補助
- ⑥ 卒業証書ホルダー費用補助
- ⑦ 卒業パーティー運営補助
- ⑧ 児童福祉特別奨学金授与
- ⑨ その他支援活動補助

2021年度
事業計画

支部長・部会長へ挨拶及び活動計画

関東支部長 仲宗根 政則

新型コロナウイルスの影響で、残念ながら2020年度の支部行事がほとんど実施できない状況でした。

総会も昨年度同様に書面決議で実施し、タイムミングを見ながらリアルでの支部活動の再開を目指します。支部会員の皆さんとは、SNSやメールを通じて接点を切らさないようにしてまいります。今年度も引き続き宜しくお願い申し上げます。

2021年度活動計画重点方針

- 1. 関東在住の大学OB・OGへ関東支部の認知度向上(同窓会本部と連携しての卒業生との接点づくり、SNSやメール等での連絡及び発信など)
- 2. 支部行事の開催を通じて参加メンバーの懇親を深めると共に、新規参加メンバーの拡大

活動計画

- 1. 2021年度関東支部総会(書面決議)
- 2. 関東支部忘年会又は新年会(状況を見ながら)

実施判断

- 3. 関東エリアで就活する大学3年生と大学OB・OGとの交流会(実施の場合)
- 2021年度役員
- 支部長・仲宗根政則(留任)、事務局長・阿波根昌吾(留任)、監査・高山朝宜(留任)、顧問・新城将孝(留任)



3月・沖縄大学卒業式 久米島支部役員

- 支部長・宇江城久人
- 副支部長・吉永博之
- 副支部長・津波瞬
- 会計・平良隆平
- 事務局長・大城学



久米島支部は2012年に発足した支部です。歴史が浅いこともあり他支部に比べると人数が少ないですが、大学生の父母会とほぼ同世代ということもあり、近所のおじさん、おばさん的な存在なので大学についての悩みごとや疑問に思ったことなどを気軽に相談できます。

久米島支部の活動としては年に1回開かれる大学主催の父母懇談会に参加

21年度事業計画(案)

- 6月・定期総会・懇親会
- 8月・沖縄大学保護者懇談会、父母交流会
- 12月・役員会
- 1月・パークゴルフ大会、新年会

宮古支部長 下地 一美

大学同窓会宮古支部重点目標

「同窓生のネットワークを拡充し冠奨学制度の周知に努める」

2020年度活動報告

- 1. 役員会▽6月10日(水)
 - 2. 宮古支部総会並びに懇親会▽6月14日(日)
- ※その他の事業はコロナ禍で中止となりました。

主な活動紹介

- 1. グラウンドゴルフを楽しんだ後、定期総会を袖山ガーデンにて5月頃開催しています。内容は事業報告、決算報告、予算、事業計画についての審議です。

- 2. 役員会は必要に応じて臨時です。3. 沖縄大学同窓会定期総会参加。4. 沖縄大学保護者懇談会に参加して学長、教授、後援会の方々と交流会を開催しています。5. 冠奨学金の依頼。6. 沖縄大学入試推薦枠の依頼。7. 忘年会、新年会の開催。8. 卒業式、入学式への参加。9. その他沖縄大学関連行事に関する協力。

支部役員紹介

- 支部長・下地一美、副支部長・下地尚登、副支部長・藤本明一、幹事・喜友名朝則、事務局・下地信広



八重山支部長 鳩間 真英

2021年度活動紹介

コロナの終息がなかなかみえない日々が続いていますが同窓会会員の皆様は頭張りに敬意を表します。私たち八重山支部も昨年度は活動が何度も遅延、中止が相次いで大変でしたが、今年度は役員を大幅に交代し昨年度の分まで頑張りたいたいと思います。

支部発足の1999年以来連絡と活動の中心(基本)柱としているグラウン

ドゴルフで親睦を深めたいと思います。以下、活動の計画を紹介します。

- ▽5月28日(金) 第1回グラウンドゴルフ大会
- 2021年度定期総会
- ▽8月・役員会
- ▽9月・沖縄大学保護者会(後援会) 懇親会
- ▽9月・第2回グラウンドゴルフ大会
- ▽12月・第3回グラウンドゴルフ大会
- 2022年
- ▽2月・第4回グラウンドゴルフ大会



▽3月・役員会、会計監査

女性部会

会長 熊谷フサ子



春は名のみの風の寒さや
谷の鶯 秋は思えど
時にあらずと
こえもたてず

改めまして同窓会会員の皆様、お世話になります。2020年度は皆さまのご協力で有意義に活動できましたこと、心より感謝申し上げます。活動の中で、参

手作りの袴で卒業式

こども文化学科の卒業生、我如古美沙稀さんです。本学大学院の第一期卒業生である熊谷フサ子さんが、後輩に袴づくりを教えたいと申し出があり、応募したのが我如古さんでした。当初はスーツで式に出席しようとしていた我如古さんでしたが、袴が無料でもらえると聞き、応募したそうです。「簡単に考えて挑戦した

加された諸先輩方からは、大学には、学生寮があったこと。二部(夜間)があり、仕事と学業での苦労も同窓会会員ならではの話題を共有できました。さて2021年度も足早に過ぎていきます。コロナコロナに追われず『日新又日新』

活動計画

- 1. 前田舟子先生の琉球史勉強会 全5回(月1回5・6・9・10・11月)
- 2. 同窓生・金城フサ子琉球研究所指導 琉舞で体を動かす・健康づくり全2回(日程等調整中)
- 3. 同窓会会長 棚原

ものの、ミシンを使わずに手縫いでの製作で、とても難しかった」と話す我如古さん。1日3時間指導して

もらい、8日間かけて完成させました。卒業式当日の朝は、熊谷さんに着つけをしてもらい、会場に向かいました。

熊谷さんは「我如古さんはとても真面目で、誠実な学生さん。毎回時間通りにきちんと来て、がんばっています



勝也氏『朗読会』(日程等調整中)

4. 女性部会員交流会 2回(11月・3月)

5. 大学に緑・花を添えたい(案) フリージア球根の植付(来春・花を咲かせたい)

6. そのほか新・卒業生への同窓会女性部会活動へのお誘い。



した。立派な袴が完成して嬉しいですよ」と感想を話しました。

我如古さんは今後、手縫いでいろいろなものを作成したいと意欲を見せ、「熊谷さんにまた指導いただけたら」と話していました。

青年部会

会長 島袋 格



青年部会は50歳以下の会員のネットワーク拡充や同窓会をサポートする目的で活動しています。2020年度はその趣旨のもと部会員の交流と活動を展開しました。

沖縄大学支援同志会

会長 新垣淑典



2018年度同窓会有志の皆さんにより産声をあげた支援同志会、何とか3年度目も離島出身学生への支援を行なえました。支援同志会の活動は主に離島出身学生への家賃支

体を招く可能性を考慮し、近年はその若返りをテーマに現役学生との交流観月会等を企画し、現役学生に対して同窓会を周知する活動をしてきました。コロナ禍でこれまでのような大人数での交流会は難しい状況です。そこで、一部の会員により提案のあった、WEB会議用アプリによる交流会を検討しました。

第1回目を試験的に運用し、主に部会員による交流会を、自宅に居ながら各々の携帯端末を利用して催しております。以後は機材を整備し、部会員にとどまらず参加を希望する会員

援を行なっており、初年度10名、2年度目16名、3年度目12名となっています。しかし支援同志会はまだまだ体力不足です。会員数も伸び悩みの中で新しい年度に入りました。コロナ禍という状況は昨年と変わりません。という事は支援を必要とする学生はまだまだ居ます。

少しでもそれらの学生さんに支援を届けるべく有志を増やし、支援の輪を大きくしてまいります。コロナの影響が大きく県内企業

についてもその機会を提供できるように展開していく予定です。ソーシャルディスタンスと部会企画の両立を目指します。



も業況が厳しい中ではあります。支援を続けて頂いている法人会員、そして個人会員の皆さんとともに2021年度も離島出身学生への支援を続けてまいります。

つきましては同窓会の皆様にも改めて支援同志会へのお力添えをお願いして、活動報告並びにご挨拶いたします。



人物シリーズ
活躍する
同窓生 ⑬

名護市教育委員会文化課
市史編さん係
会計年度任用職員

川満彰さん

沖縄大学大学院
第一期卒業



在学中の思い出は？

私は文化人類学の故比嘉政夫氏に民俗学のご指導を受けたくて入学しました。理由は私の暮らすうるま市兼箇段の古村落風景を民俗学で解き明かしたいと考えたからです。2年間の大学院生活は、沖縄本島各村の御嶽・グスクと集落の位置関係をフィールドワークするなか、兼箇段村に遺る慣習・祭祀行事の比較研究等を一年半おこない、修士論文執筆のため半年間費やしました。

その一方で個性ある先生方の講義やディスカッションは大変興味深く、金城正篤氏の琉球処分論や故新崎盛暉教授、故屋比久収准教授の沖縄現代学、思想学などは大学院修了後も私の学び方の根幹となっています。

また私は会社を辞めた手前、相方に「家事は私がやる」と宣言したため朝晩の食事づくり、洗濯・掃除や子どもなどの学校行事への参加など、毎日がフル活動で充実した日々を送りました。

大学卒業後の進路は？

46歳で大学院を修了したあと、名護市教育委員会市の市史編さん係で聞き取り

調査員の募集があり、そこで沖縄戦関連の聞き取り調査員を始めました。私は30代から本土の修学旅行生や教職員・労働組合等を対象に、ライフワークとして平和ガイドを行っていたこともあり、やんばるの沖縄戦調査は興味ある仕事でした。その頃から、大学院同期生や教授からの紹介で沖縄タイムスのコラム「唐獅子」や掲載用論文を執筆する等の仕事が出始めました。

1年後、名護市史編さん係の担当者が大学教員になることを理由に私に席を譲ってくれました。私は名護市に嘱託職員（現会計年度任用職員）として働くようになりました。47歳の再就職です。

現在のお仕事は？

2016年『名護・本編3 名護・やんばるの沖縄戦』を刊行、その関連資料として三つの『資料編』、二つの『証言集』を編さんし刊行しました。その過程で、未解明だった沖縄戦時下の御真影（天皇皇后の写真）の末路、北部の少年兵「護郷隊」などを調査し論文として『証言集』のなかに組み入れました。いずれ

の論文も反響は大きく『県史 沖縄戦』（2017年）に、やんばるに関連する沖縄戦を4本執筆できました。現在『陸軍中野学校と沖縄戦』（2018年）、共編で『戦争孤児たちの戦後史』（2020年）を発売し、今年6月に『沖縄戦の子どもたち』（いずれも吉川弘文館）を発売します。名護市史としては今年度中に『名護の沖縄戦 平和ガイドブック』（仮称）を作製し、中学校・高校の全生徒に配布予定です。

議論になったことも後で知りました。「学びたい」という思いを沖縄大学だけでなく、沖縄大学同窓会が奨学金30万円という形で支えてくれたことは感謝の念に堪えません。

伊江島の反戦平和資料館「わびあいの里」に謝花悦子さんという方がいます。私はよく北部の高校生（約80人）と一緒に平和学習で訪ねるのですが、謝花さんは高校生に向かって「みなさんは何のために勉強をしているの？」と問いかけます。生徒たちは突然の「なぜ勉強？」との問いに目が点になり、その目には「良い学校、良い仕事に就くため」という思いが見えます。その瞬間、謝花さんは生徒たちに「幸せになるために勉強してやるんだよね」と語りかけます。



中央車いす 謝名悦子さんと高校生（左端著者）

沖縄大学への期待と在学生へのメッセージを

私は高卒ですが大学院へ入学できました。1期生ということもあり教授会で

か社会には、勉強は「給料が良く安定した仕事に就くため」「良い仕事、即ちお金があれば幸せになれる」という錯覚した構造ができてきている気がします。もちろんお金は幸せになるための重要な要素です。しかし、お金があっても幸せになれる人も多くいます。謝花さんは「だからこそ幸せを求めて勉強する」と言葉を継ぎます。



護郷隊について説明する著者 名護小学校にて

文芸

復帰50年・動乱の時代

沖繩は来年、本土に復帰して50年を迎えます。今号では復帰の年に学生時代を送った島袋正治同窓会顧問（第11代同窓会会長）に当時の大学の様子を寄稿していただきました。

1970年法経商学部
第1部経済学科卒



島袋正治

来年は復帰50年、米軍の沖繩占領から77年を迎える。早いもので私の年齢も77歳になる。

1964年に沖繩大学に入学すると私たちはいきなり復帰運動の洗礼を受けることになった。

4・28の学内集会と与儀公園での県民大会と国際通りでのデモ行進である。18歳の少年にとつては

刺激的な出来事で米国の沖繩統治や米軍の圧政に心を痛めていた者にとつては少し大人になった気分になった。以後毎年迎える復帰行動に関わるようになった。

印象に深かったのは、64年には「日の丸」を揚げた学内集会に翌年からは見なくなった。復帰運動が深化しそのあり方を問う議論が指導部内であったのだろう。

69年11月の佐藤首相とニクソン大統領の首脳会議で、72年に施政権を日本に返還する事が決まり返還政策が具体化するにつれ、私たちの望まない内容が明らかになってきて県内の不満や反対が噴出した。

最近でも基地の整理縮小、普天間の危険性の除去といったつツヤンバルの自然を破壊してヘリパット群をつくり、辺野古に海を埋め立て強大な軍事基地の建設を強引に進めている。これでは子孫に負の遺産を遺すようなものだ。

沖繩大学の「民主化」のこと 私が入学する前から、沖大では断続的にいわゆる「民主化闘争」つまり大学運営について主に理事長

に対し教職員及び学生の対立で67年秋にはついに学生によるバリケード封鎖の全学ストライキを経て教授会事務職員、学生の三者共闘の全学協議会による二年余にわたる自主管理闘争の末、70年2月に民主化闘争は決着を見た。

このバリケードから自主管理闘争の過程でデモや夏休みの短縮等で全ての学友に不自由や不都合があったと思われるが、多くの学友が後々に「充実し貴重な体験をした」と語っていて有り難い思いである。



自治会長時代の著者

私大の統合反対と沖大の存続 72年の沖繩返還が決まると、日本政府は沖繩を制度的一体化に強引に組み込んでいった。

私学の設置基準の達成率を盾に沖繩大学と国際大

学に十数億円をちらつかせながら統合して新設の大学を設置することを画策し始めた。当時の国際大学はほぼ無条件で統合を受け入れた。しかし沖繩大学教授会は揺れ動き最終的に学生や事務職員を含めた全学的合意が得られないとして反対する事になる。

統合に反対して沖大は72年1月に学部学科を縮小したうえで、自主独立の自由で民主的な学風を追求して存続させることを決定する。この問題に対して当時の同窓会長は統合に前のめり、72年5月の臨時同窓会総会で不信任動議が可決され、大城光恵さんⅡ下記コラムⅡが新会長に選出された。同窓会の歴史で初めての出来事である。



大学統合に反対してデモ行進する学生ら

編集後記

会報第32号をお届けします（年2回発行）。ご寄稿者、編集に関わった皆さんへ心から感謝します。「活躍する同窓生」「文芸」欄へのご投稿をお待ちしています。

同窓会広報委員会委員長
小川勇作

大城光恵氏のこと

顧問 金城正弘

大城光恵氏は民謡「二見情話」で知られる旧久志村大浦の育ち。高校時代は名護で過ごした。大学入学後は新聞部に籍を置き、学園民主化闘争にも積極的に関わっている。

そんな同氏を会長に、沖繩大学存続の署名活動を全県的に展開するとともに、沖繩県マスコミ労協議長として、また沖繩県労働組合協議会の主要な地位にあつて沖繩大学の存続闘争を果敢にリードした。

なかでも県労協を通して当時、日本最大の労働組合であった総評の拡大評議員会において、「沖繩大学の存続支援決議が採択」された功績は大城氏の力量による。

沖繩大学の存続闘争の大きなうねりは、1972年12月、那覇市の与儀公園で沖繩県労働組合協議会、沖繩県教職組合と沖繩大学の3者共催による「沖繩大学の存続を勝ち取る県民総決起大会」が開催されたことである。

同期の諸見里安次氏は光恵氏について、「酒席で、は、政治・経済談議が好きで酒豪であった。当時はめざらしく大学2年の時にはオートバイでソビエト連邦を冒険旅行するなど進取気鋭の人物だった」と述懐している。

氏は大城翔のペンネームで『天皇が沖繩に来る日―天皇は果たして沖繩の土を踏めるか―』（1984年2月、月刊沖繩社）の著書がある。沖繩大学の存続を語るべき、その存在は欠かせない。